

# 貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
<b>流 動 資 産</b>	<b>179,204</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>63,543</b>
現金及び預金	4,007	支払手形	6,090
受取手形	3,570	買掛金	22,905
売掛金	76,947	リース債務	209
番組勘定及びその他の製作品	14,214	未払金	13,861
貯蔵品	77	未払費用	7,639
前渡金	6,913	未払法人税等	882
前払費用	2,775	前受金	3,781
繰延税金資産	1,992	預り金	4,104
預け金	67,294	従業員預り金	2,815
その他流動資産	1,558	返品調整引当金	33
貸倒引当金	△148	その他流動負債	1,217
<b>固 定 資 産</b>	<b>82,388</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>27,174</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>54,289</b>	長期リース債務	284
建物	27,455	退職給付引当金	26,249
構築物	478	資産除去債務	437
機械及び装置	7,950	その他固定負債	203
航空機	0		
車両運搬具	25	<b>負 債 合 計</b>	<b>90,718</b>
工具器具備品	1,478	<b>純 資 産 の 部</b>	
土地	16,467	<b>株 主 資 本</b>	<b>170,875</b>
建設仮勘定	433	資本金	8,800
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>7,256</b>	資本剰余金	153,017
ソフトウェア	7,075	資本準備金	2,200
その他無形固定資産	181	その他資本剰余金	150,817
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>20,842</b>	<b>利 益 剰 余 金</b>	<b>9,058</b>
投資有価証券	279	その他利益剰余金	9,058
関係会社株式	2,164	繰越利益剰余金	9,058
長期前払費用	237		
繰延税金資産	8,029	<b>評 価 ・ 換 算 差 額 等</b>	<b>△1</b>
差入保証金	8,334	その他有価証券評価差額金	△1
その他投資	2,162	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>170,874</b>
貸倒引当金	△365	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>261,592</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>261,592</b>		

# 損 益 計 算 書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		289,708
売 上 原 価		204,031
売 上 総 利 益		85,676
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		80,170
営 業 利 益		5,506
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	145	
受 取 賃 貸 料	283	
補 助 金 収 入	401	
業 務 受 託 収 入	66	
雑 収 入	164	1,061
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	28	
賃 貸 費 用	247	
雑 損 失	7	283
経 常 利 益		6,284
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	1	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	0	1
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	28	28
税 引 前 当 期 純 利 益		6,257
法人税、住民税及び事業税	2,702	
法 人 税 等 調 整 額	206	2,909
当 期 純 利 益		3,348

# 株主資本等変動計算書

(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				株主資本 合 計
	資 本 金	資本剰余金		利 益 剰余金	
		資本準備金	その他資本 剰 余 金	その他利益 剰 余 金 繰越利益 剰余金	
当 期 首 残 高	8,800	2,200	150,817	11,110	172,927
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当				△5,400	△5,400
当 期 純 利 益				3,348	3,348
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	△2,051	△2,051
当 期 末 残 高	8,800	2,200	150,817	9,058	170,875

	評価・換算差額等	純 資 産 合 計
	その他有価証券 評価差額金	
当 期 首 残 高	—	172,927
当 期 変 動 額		
剰 余 金 の 配 当		△5,400
当 期 純 利 益		3,348
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△1	△1
当 期 変 動 額 合 計	△1	△2,053
当 期 末 残 高	△1	170,874

# 個 別 注 記 表

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準および評価方法

#### (1) 有 価 証 券

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法によっております。

#### そ の 他 有 価 証 券

時 価 の な い も の……………移動平均法による原価法によっております。

なお、投資事業有限責任組合およびそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

#### (2) た な 卸 資 産

番組勘定及びその他の製作品……………個別法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

貯 蔵 品……………最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。



### 3. 引当金の計上基準

貸倒引当金……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

返品調整引当金……出版物の返品による損失に備えるため、法人税法に定める繰入限度相当額を計上しております。

退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付引当金および退職給付費用の処理方法は以下の通りです。

#### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

#### ② 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。

4. 消費税等の会計処理………税抜方式によっております。

5. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## (表示方法の変更)

### 貸借対照表

前事業年度において区分掲記しておりました「未払消費税等」(当事業年度72百万円)は重要性が乏しくなったため、当事業年度においては「その他流動負債」に含めて表示しております。

### 損益計算書

前事業年度において、「雑収入」に含めておりました「補助金収入」(前事業年度57百万円)は、重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。

## (貸借対照表に関する注記)

### 1. 関係会社に対する金銭債権および債務

短期金銭債権	67,626百万円
長期金銭債権	6,539百万円
短期金銭債務	773百万円
長期金銭債務	1百万円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額 81,868百万円

### 3. 当事業年度までに取得した固定資産のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は、建物85百万円、構築物46百万円、機械及び装置335百万円、工具器具備品77百万円、ソフトウェア15百万円であり、貸借対照表計上額は、この圧縮記帳額を控除しております。

### 4. 保証債務

被保証者	保証金額(百万円)	保証債務の内容
従業員	368	住宅取得資金借入保証

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引

売	上	高	1,272百万円
仕	入	高	2,999百万円
販売費及び一般管理費			7,686百万円
営業取引以外の取引高			337百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 2,000株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	5,400	2,700,000	平成27年3月31日	平成27年6月26日

(2) 当事業年度末日後に行う剰余金の配当に関する事項

平成28年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	3,400	1,700,000	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

購入番組再放映権評価損	497百万円
未払事業税	154
未払賞与	956
退職給付引当金	8,037
その他の	1,207
	<hr/>
繰延税金資産小計	10,853百万円
評価性引当額	△414
	<hr/>
繰延税金資産合計	10,439百万円

(繰延税金負債)

前払年金費用	311百万円
除去費用資産計上額	105百万円
	<hr/>
繰延税金負債合計	417百万円
	<hr/>
繰延税金資産の純額	10,021百万円

2. 法人税等の税率変更による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」および「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産および繰延税金負債の計算（ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の32.30%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.86%、平成30年4月1日以降のものについては30.62%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が533百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が533百万円増加しております。

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要資金は通常の営業活動により獲得した資金から充当することを基本方針としており、借入については、設備投資などの投資資金が必要になった都度、検討することとしております。

一時的な余資は、親会社である㈱フジ・メディア・ホールディングスが提供するCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）による資金集中制度を利用しております。

#### (2) 金融商品の内容およびそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当社は当該リスクに関して、取引先管理規程に従い、営業債権について各部門において主要な取引先の状況を定期的に把握し、取引相手ごとと与信限度額の設定を行い、期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

預け金は、CMSによる資金集中制度の結果発生するものであり、信用リスクは僅少であると判断しております。

投資有価証券に含まれる株式および関係会社株式は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式ですが、非上場株式であり市場価格がないことから、定期的に取引先企業の財務状況等を把握しております。

投資有価証券に含まれる投資事業組合への出資は、定期的に決算報告書入手し財務状況等を把握するとともに、直近の決算書を基礎として持分相当額を純額で取り込む方法により評価しております。

営業債務である支払手形、買掛金および未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。営業債務は流動性リスクに晒されていますが、当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成28年3月31日（当事業年度末）における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりであります。

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
<b>資 産</b>			
(1)現金及び預金	4,007	4,007	—
(2)受 取 手 形	3,570	3,570	—
(3)売 掛 金	76,947	76,947	—
(4)預 け 金	67,294	67,294	—
<b>負 債</b>			
(1)支 払 手 形	6,090	6,090	—
(2)買 掛 金	22,905	22,905	—
(3)未 払 金	13,861	13,861	—

### 注1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

#### 資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金並びに(4) 預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### 負債

- (1) 支払手形、(2) 買掛金、および(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

注2. 非上場株式（貸借対照表計上額2,419百万円）および投資事業組合出資金（貸借対照表計上額24百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記金額には含めておりません。

### （賃貸等不動産に関する注記）

当社は、東京都その他の地域において賃貸等不動産を有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

